

新年のごあいさつ

公益社団法人 東京都ペストコントロール協会 会長 清水 一郎

新年明けましておめでとうございます。

昨年末には当協会の創立50周年記念事業式典及び記念誌発行に際し、ご協力を頂きありがとうございました。皆様のおかげにより大過なく行事を終えることができました。50年が過ぎれば次の60年、70年に向かいます。協会員の皆様と一緒に東京協会がより発展していくためには、まず組織を作り、チームワークが生まれれば大きな事業にも取り組むことができると考えております。

その準備として昨年の当協会は感染症委員会、害虫相談委員会を特に充実させることから始め、順調に軌道に乗りつつあります。近年の気象の変化や外来生物の侵入等により相談内容も多岐にわたるようになり、もちろん相談件数も増え続けております。相談件数の増加は日夜研鑽を積んでいる協会員の方々が都民の方々に信頼されている証かもしれません。各委員会では害虫相の変化や感染症の恐れがより強まっている中、次々とクリアしていかなければならない課題が、現在、未来に向けてたくさん出て参ります。そこで委員会活動を活発にしていき、協会員の方々にはより協会事業に参画して頂き、情報交換をし、協会員全員で前向きに事業に取り組み、そこから付加価値を付けて協会が都民からますます信頼されていくこととなれば、なお良いことかと思えます。

私は日本ペストコントロール協会の関東甲信越地区本部長として、災害時対応、特に水害や地震の対応を求められることとなりました。災害は広域になることが多く、東京協会だけでは対応できない事象が起こることも想定され、関東甲信越地区の連携をより強固にし、相互に協力関係を持って行動できる体制作りを早急に実現したいと思っております。緊急時、非常時の体制作りにおいては、行政とPCOの連携を進めるためのコミュニケーションが必要となり、次に一体となって活動するための訓練をしなければなりません。行政だけ、PCOだけでは成し遂げられない事象の想定を今からでも始めないと都民の安全・安心を確保することはできません。皆様のお知恵を拝借させて下さい。

今年も勉強、努力、継続、行動を実践するために頑張ります。是非とも皆様のご協力を頂きますようお願い申し上げます。